

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 7 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380544

研究課題名(和文)環境ベンチャーにおける規制マネジメントの研究

研究課題名(英文)Research on regulation management by cleantech startup companies

研究代表者

尾崎 弘之(Ozaki, Hiroyuki)

神戸大学・経営学研究科・教授

研究者番号：60409787

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は、1)環境汚染防止などを対象とした旧来の環境規制ではなく、成長分野の環境ビジネスを規制する枠組み、2)規制と規制される側の企業間の相互作用、3)日本企業にとってのマネジメント・モデルを、明らかにしたことである。本研究の特色は、「環境政策」と「企業経営」の二分野を横断する学際的な手法をとることと、公益と経済の持続的発展の両立を考察することであるが、政策とビジネスに様々なインプリケーションを与えることが期待される。また、多くの事例研究と参与観察を実施した。本研究の具体的な成果は、著書2冊、経済雑誌への投稿9件、招待講演23件であった。

研究成果の概要(英文)：The outcomes of this research project are the followings: 1)To identify the framework to analyze the clean tech companies not only as strongly regulated companies but as growing ones, 2) To identify interactive activities between government and/or government agencies, and regulated companies, 3) To identify management model for Japanese clean tech companies. The characteristics of this research are interdisciplinary method of environmental policy and business management, and making a good balance between public interest and profit. Various implications are expected from the outcome of the research.

The products from the research are two books, nine postings to the economic journals, twenty-three invited lectures, and many case studies have been done during the project period.

研究分野：ベンチャー経営

キーワード：環境ビジネス、ベンチャー経営、技術経営、イノベーション、規制マネジメント、エネルギービジネス、アントレプレナーシップ

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、2007年から2年間、日本、米国、欧州、アジア約150社の環境ベンチャーを調査してきた。各社の企業理念、基盤技術、差別化の要因について分析し、A)「環境問題」というキーワードの下に多様な産業の融合が起きていること、B)規制変化の先取りに事業機会があること、C)グローバル化が進んでいる分野が拡大していること、D)イノベーションの担い手としてベンチャー企業の役割が重要であること、E)環境保護と経済発展の両立が志向されていることなどの知見を得た。これらの研究結果を「次世代環境ビジネス」(日本経済新聞出版)という学術書にまとめ、2009年1月に出版した。

その後、研究代表者は平成22年度から24年度まで科学研究費の助成を受けて、「環境ベンチャーにおける効率的なマネジメントに関する研究」というテーマを取り上げてきた。先端技術の活用、ビジネスモデル構築、マーケティング、組織運営などの側面からの環境ビジネス・マネジメント手法が研究対象である。

この研究において、グローバル化後に見られた経済目標の三つの修正、すなわち、A)成長追及の修正、B)集中したシステムの修正、C)規制マネジメントの修正が、環境ベンチャーの経営に深く関連しているという知見を得た。

なかでも、規制のマネジメントが大きな比重を占めるため、図1のようにそのテーマを深化させることが本研究の目的である。また、ベンチャー企業だけでなく大企業ビジネスも本研究のテーマであることから、研究対象に社内ベンチャーも含めている。

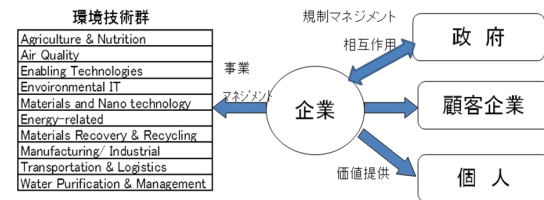
2. 研究の目的

本研究は、再生可能エネルギー、新素材・ナノテク、水・空気浄化、リサイクル、製造、ロジスティクス、情報ソリューションなどの分野でビジネスを行う「環境ビジネス」企業が規制をマネジメントする枠組みを明らかにすることを目的とする。

本研究で明らかにしようと考えているポイントは、1)環境汚染防止などを対象とした旧来の環境規制ではなく、上記の新しい分野の環境ビジネスを規制する枠組み、2)規制と規制される側の企業間の相互作用、3)日本企業にとってのマネジメント・モデルである。

本研究の特色は、「環境政策」と「企業経営」の二分野を横断する学際的な手法をとることと、公益と経済の持続的発展の両立を考察することであり、政策とビジネスに様々なインプリケーションを与えることが期待される。

図1 規制のマネジメントと規制・企業の相互作用



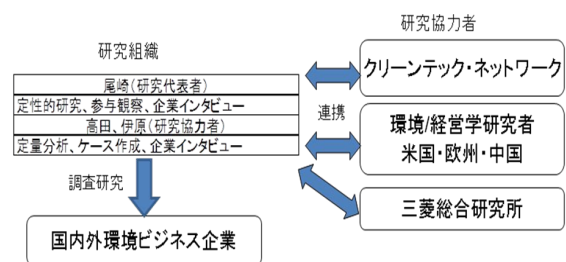
3. 研究の方法

本研究は、研究代表者が行ってきた環境経営論、技術ベンチャー経営論、産学連携論、組織マネジメント論に関する研究を融合する形で、環境ビジネスと規制の全体構造とそれらのマネジメントプロセスを調査・検証するという学際的な研究である。

具体的には、先行研究、1次資料(インタビュー調査や内部資料の渉猟など)、2次資料(各種統計資料など)の広範な探索により理論的な分析フレームワークを構築する。その分析フレームワークに即して、複数の事例を対象とする詳細な定性的研究と定量的研究を併用する。演繹的に導出される理論に依拠しつつ、詳細な事例研究と定量的研究を併用する研究スタイルは、仮説発見型と仮説検証型の利点を融合したものと見える。さらに、本研究の方法論上のもう一つの特徴は、事例研究と参与観察を併用することである。

研究に必要な調査分野は次の通りである。a)環境規制の整理・分析、b)企業にとっての環境規制マネジメント要素の分析、c)環境ビジネスと規制の関係における暗黙知の形式知化、d)環境ビジネスの事例研究・参与観察。

図2 研究組織の全体像



4. 研究成果

本研究は、1)環境汚染防止などを対象とした旧来の環境規制ではなく、成長分野の環境ビジネスを規制する枠組み、2)規制と規制される側の企業間の相互作用、3)日本企業にとってのマネジメント・モデルを明らかにすることができた。本研究の特色は、「環境政策」と「企業経営」の二分野を横断する学際的な手法をとることと、公益と経済の持続的発展の両立を考察することであるが、政策とビジネスに様々なインプリケーション

を与えることが期待される。また、多くの事例研究と参与観察を実施した。本研究の具体的な成果は、著書2冊、経済雑誌への投稿9件、招待講演23件であった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

尾崎弘之、「次世代エコカーが日本の環境ビジネスを牽引する」、ニューズウィーク日本版(web版)、PHVが拓くこれからのモビリティ、11月、2015。(査読無)
http://www.newsweekjapan.jp/phv_mobility/2015/11/vol13.php

尾崎弘之、「川内原発再稼働直前の浜岡原発：設備投資だけの安全対策では不十分」、Yahoo! News、7月、2015年。(査読無)

<http://bylines.news.yahoo.co.jp/hiruyukiozaki/20150717-00047580/>

尾崎弘之、「地方創生の具体策：都会のサラリーマンは果たして地方移住を希望するのか?」、Yahoo! News、6月、2015年。(査読無)

<http://bylines.news.yahoo.co.jp/hiruyukiozaki/20150607-00046383/>

尾崎弘之、「都会サラリーマンの地方移住：冷ややかに見る人が無視できない「不都合な真実」とは?」、Yahoo! News、6月、2015年。(査読無)

<http://bylines.news.yahoo.co.jp/hiruyukiozaki/20150614-00046619/>

尾崎弘之、「(地方創生)都会サラリーマンの地方移住：移籍先企業で歓迎される人・歓迎されない人の違いは?」、Yahoo! News、6月、2015年。(査読無)

<http://bylines.news.yahoo.co.jp/hiruyukiozaki/20150622-00046863/>

尾崎弘之、「福島第一原発汚染水問題の本質を見誤るな：現場を訪れて得た「三つの違和感」Yahoo! News、3月2014年。(査読無)

<http://bylines.news.yahoo.co.jp/hiruyukiozaki/20140310-00033342/>

尾崎弘之、「日口経済協力はなぜ不可欠か：「天然ガス」をキーワードに両者の利害は一致している」Yahoo! News、5月、2013年。(査読無)

<http://bylines.news.yahoo.co.jp/hiruyukiozaki/20130501-00024661/>

尾崎弘之、「原発輸出と安全確保は別物だ：トルコへの原発輸出に対する賛否はかくの如く整理すべき」Yahoo! News、5月、2013年。(査読無)

<http://bylines.news.yahoo.co.jp/hiruyukiozaki/20130507-00024793/>

尾崎弘之、「5月17日の米国シェールガス輸出解禁で日本は良くなるのか?：電

力会社が変わらないと現状は変わらない」Yahoo! News 5月、2013年。(査読無)

<http://bylines.news.yahoo.co.jp/hiruyukiozaki/20130521-00025093/>

[学会発表](計23件)

尾崎弘之、「環境・エネルギー分野の新規事業」、平成27年度新分野進出支援事業(地域イノベーション創出支援事業)(ネットワーク形成支援型)(関東地域/環境エコシステムネットワーク形成支援事業)委託事業における「環境エコシステム新事業創出フォーラム」、2016年3月3日【秋葉原コンベンションホールカンファレンスフロア(東京都)】

Hiroyuki Ozaki, "Innovation made by Technological Entrepreneurs in Japan: Challenge of Kobe's Interdisciplinary Education," Kobe University Global-Link Forum in Taipei, 2015年12月4日, 【Taipei (Taiwan)】.

尾崎弘之、「地方創生とプロ人材の活用」、株式会社静岡銀行、株式会社リクルートキャリア「静岡地区限定セミナー」、2015年11月26日, 【アゴラ静岡(静岡県)】.

尾崎弘之、「ライフサイエンスと成長戦略」、茨木商工会議所主催(彩都バイオサイエンスセミナー)、2015年10月28日, 【立命館大学いばらきフューチャープラザ(大阪府)】.

尾崎弘之、「環境ビジネスはいかに成長戦略に貢献するか」、愛知県(公財)名古屋産業科学研究所共催「あいち環境塾」、2015年10月17日, 【名古屋大学東山キャンパス VBL 棟ベンチャーホール(愛知県)】.

尾崎弘之、「起業家戦略とエネルギービジネス」、一般社団法人日本MOT振興協会(MOT実践エグゼクティブ・スクール2015)、2015年06月20日, 【早稲田大学日本橋キャンパス(東京都)】.

尾崎弘之、「人材活用の新しい概念」、近畿経済産業局主催(他業種情報交流型未来ビジネス発想研究会)キックオフ研究会、2015年6月2日, 【グランフロント大阪北館ナレッジキャピタルToweC「ナレッジサロン」(大阪府)】.

尾崎弘之、「成長戦略に資するエネルギー・環境ビジネスとは」、青森県省エネ・創エネ・蓄エネ導入促進マッチングフェア講演、2015年03月18日, 【ウェディングプラザアラスカ(青森県)】.

尾崎弘之、「技術ベンチャーの成功要因とアントレプレナーシップ教育」、神戸大学経営学研究科セミナー、2014年11月07日, 【神戸大学六甲台第一キャンパス(兵庫県)】.

尾崎弘之、「エネルギーベンチャー企業に学ぶこと」、『第3回産学官連携による

八王子近隣地域交流会』講演会、2014年09月18日、【京王プラザホテル八王子（東京都）】。

尾崎弘之、「社会的共通資本形成に向けた資金調達のあるり方」、2014年度日本建築学会大会（近畿）特別調査部門研究協議会、2014年09月12日、【神戸大学（兵庫県）】。

尾崎弘之、「成功するエネルギー新規事業はどのように生まれるのか」、東芝テック Summer Seminar & Fair 2014 in Tokyo、2014年08月08日、【セルリアンタワー東急ホテル（東京都）】。

尾崎弘之、「九州地区の成長エネルギーベンチャー」、2014年度参議院議員大久保勉セミナー、2014年07月17日、【グランドハイアット福岡ホテル（福岡県）】。

尾崎弘之、「現在の経済動向と企業戦略」、平成26年度兵庫ユアサやまみ会講演、2014年07月11日、【ホテル日航姫路（兵庫県）】。

尾崎弘之、「ベンチャービジネスの最新状況」、2014年4月23日、【ウエスティン名古屋キャッスル（愛知県）】。

尾崎弘之、「福島第一原発の現状」、日本政策投資銀行講演会、2014年3月6日、【乃木坂倶楽部（東京都）】。

尾崎弘之、「国内外環境ビジネスの現状」、環境省低炭素ビジネスワーキンググループ、2014年2月12日、【経団連会館（東京都）】。

尾崎弘之、「環境ビジネスはどのように変化しているのか」、和歌山県中小企業家同友会、2013年10月19日、【ホテルいとう（和歌山県）】。

尾崎弘之、坂本孝、一瀬邦夫、「アジア時代の日本と中国、韓国」、Asia Leaders Business Summit ~これからのビジネスパートナーシップとは~、2013年9月17日【グランドプリンスホテル高輪（東京都）】。

尾崎弘之、「近未来のスマートエネルギーはこうなる」、おおた区民大学、2013年9月10日、【東京工科大学蒲田キャンパス（東京都）】。

⑳ 尾崎弘之、「環境・エネルギービジネスはこのように変わっている」、信成会、2013年8月30日、【ラフレさいたま（埼玉県）】。

㉑ 尾崎弘之、「アベノミクス成長戦略の柱エネルギー・環境ビジネスとは」、社団法人経済同友会産業懇談会、2013年7月12日、【日本工業倶楽部（東京都）】。

㉒ 尾崎弘之、「社会的共通資本形成への企業の貢献の可能性」、環境経営学会、2013年5月25日、【東京都市大学 横浜キャンパス（神奈川県）】。

〔図書〕（計2件）

尾崎弘之、竹ヶ原啓介、菊池武晴「再生

可能エネルギーと新成長戦略」150頁、2015年

尾崎弘之ら（日経エコロジー編著）日経BP社、「激論&直言 日本のエネルギー」、285頁、2013年。

〔産業財産権〕

出願状況（計 0件）

取得状況（計 0件）

〔その他〕

ホームページ等

尾崎教授の今、君たちが知るべきこと
<http://bylines.news.yahoo.co.jp/hiruyukiozaki/>

戦略論で読み解くグリーンラッシュの焦点

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/report/20130124/242726/?rt=ocncl>

次世代環境ビジネスを科学する

<http://hiroyukiozaki.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

尾崎弘之（OZAKI, Hiroyuki）
神戸大学，経営学研究科，教授
研究者番号：60409787

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし